



# こども相談室だより

No. 17

平成31年3月発行

こんにちは。

「こども相談室だより」第17号を発行します。

今回は“しつけとは”と“親心”です。



発行元  
長野市こども未来部  
こども相談室  
TEL 026-224-7849

「しつけ」には漢字で「仕付け」と「躰」の2つがあります。

「仕付け」とは裁縫の「仕付け糸」のように、あちこち動かないように押さえるという意味で、本人の意思は関係なく危険な場面で時には腕力で行動を制止する、人に迷惑をかけるような行為を厳しく制することが「仕付け」です。



「躰」は身を美しくする術を身に付けることで、本人の意思が関わり、親に叱られるからいたずらをしないのではなく、いたずらをする人にも迷惑がかかるからやらない方がいいと、自分で学び我慢するようになることです。「躰」には挨拶や食事のマナーも含まれ、それは押し付けられて身に付けるよりも、自分自身で必要性を感じて学ぶことが大切です。そのためには、親は忍耐強く子どもの成長を見守る必要があります。「手本を見せる」「言って聞かせる」「させてみる」「ほめる」の繰り返しが大事ですね。

## 手本を見せる

「手本を見せる」は人にもものを教える時は、まず自分が手本となって「相手に見せる」ことが大切です。この言葉の中には相手を尊重する意味もあります。

## させてみる

「させてみる」は、子どもができるのかどうか、実際にさせてみることにより、教えていることがその子どもの年齢や能力に見合ったものかどうかを確認できます。

## 言って聞かせる

「言って聞かせる」は、相手を尊重しきちんと伝わるように説明を加えることで、どのような手順を踏めばそれができるようになるかが伝わります。

## ほめる

「ほめる」は、できたことを称賛することで、教えたことが定着します。「〇〇ができてえらいね」と具体的にほめると「またやろう」という気持ちになります。



朝の登園時、園舎前に立って挨拶をしていると、お母さんの反応には3つのタイプが見受けられます。まずは、こちらの挨拶に答えて「おはようございます」と返すお母さん。次に、声は出さずに会釈だけするお母さん。そして、無反応で通り過ぎるお母さん。

普段の生活の中で、大人は子どもに「おはようは?」「ありがとうは?」「ごめんねは?」と言う機会が多いように思います。子どもに挨拶を促す前に、大人が日々手本を見せることが何よりの近道ではないでしょうか。新しい生活を始める春、気持ち良い挨拶から心がけたいものですね。





# 親心 (おやごころ)



こども相談室では、0～18歳までのお子さんにかかわるご相談に応じています。

お子さんの年齢に幅がありますので、お悩みの内容もそれぞれです。しかし、お子さんの年齢にかかわらず共通したものがあります。それは「親御さんなりのお子さんへの思いや願いがある」ということです。いわゆる“親心”ですよね。

親御さんは誰しも我が子に期待をします。また、お子さんも親御さんの期待に応えようとしています。期待通りにできれば喜び、できなければ残念に思うものです。時には叱ることもあるでしょう。

## < わざと悪いことをします >

頑張ってみせるのも、わざと叱られるようなことをするのも、実はどちらも「わたし(ぼく)を見て！」のサイン。お子さんに「ちゃんと見てよ」「大好きだよ」が伝わるようにしましょう。「自分が愛されている」と感じられれば、わざわざ悪いことをしなくなります。

また、単に反応を楽しんでいる時には、望ましくない行動には反応せず、望ましい行動に反応することで、望ましくない行動は減ってきます。

## < 何度も言っているのに… >

年齢が低ければ善悪の区別がついていないことも。叱らなくて済む環境(さわってほしくない物は手の届かないところに置くなど)で対応しつつ、何度か繰り返して教えていきましょう。

ダメと言われても繰り返している場合は、適切な行動がわからないために繰り返してしまう場合もあります。そんな時は、適切な行動を見せたり教えたりしましょう。適切な行動をして褒められることで、学んでいきます。

## < よかれと思って言っているのに、伝わらない >

「よかれと思って」「後で我が子が困らないように」これぞ親心ですよね。ところが、これがなかなかうまく伝わらないということが多いようです。

親御さんは我が子のために必死で説くがために、時には強く言ったり怒ったりしてしまうこともあるでしょう。

お互いに相手の意思を尊重しながら 提案・相談 の形で話せるといいですね。まずは、親御さんの気持ち(心配・悲しい、など)と、こうしてほしいという願いを伝えることから始めてはいかがでしょうか。

